

2022 年度 HPDU 事業報告書

(1) 日本高校生パーラメンタリーディベート連盟西日本オープン中学生大会 2021

HPDU of Junior High School West Japan Open 2021

主催：一般社団法人 日本高校生パーラメンタリーディベート連盟

後援：有限責任 あずさ監査法人、iae グローバルジャパン株式会社、エイムネクスト株式会社、株式会社 EduLab、株式会社オールアバウト

趣旨：全国、特に西日本の中学生に、即興型であるパーラメンタリーディベートの試合を行う機会を提供することにより、グローバル社会で活躍するのに必要とされる英語による論理的発信能力、問題発見解決能力、クリティカル・シンキング、コラボレーション力、グローバル課題や時事問題についての基礎知識、そして緩急やジェスチャー、ユーモアなどを意識した聞き手目線の分かりやすいパブリック・スピーチ力を身につける意義を伝える。

日時：2021年7月22日（祝）9:00-17:00

場所：オンライン（英語ディベート専用のプラットフォーム Mixidia を使用）

日程：9:00-9:30 Registration

9:30-9:50 Opening Ceremony

10:00-11:10 Round1

11:30-12:40 Round2

12:50-13:30 Lunch

13:30-14:40 Round3

15:00-16:10 Round4

16:40-17:00 Closing Ceremony

スピーチの形式：短縮型ノースアメリカンスタイル（4分、4分、4分、4分、3分、3分）Constructive speech が4分で、Reply speech が3分。4試合数4試合（2試合以降はパワーペアリング）を予定。参加チームによって変更あり。1チーム3名、4試合（2試合目以降はパワーペアリング）、準備時間は20分。

参加資格：中学生（留学生、帰国生、外国籍の生徒も含む）。※学校、個人での申込み共に可能。チームの人数は3から5名（1試合に出場するのは3人だが、試合ごとに選手入替可能）。参加を希望するが人数が足りない場合は、運営側で他の個人申込者と組み合わせてチームを用意。※ディベート経験のある小学生の参加も可とする。

参加費：一人につき 1,000 円

ジャッジ：高校生ディベーターと招待ジャッジが行う。高校生ジャッジは、18か月以上のパーラメンタリーディベート経験がある高校生で、公正なジャッジと勝敗の説明・アドバイスが可能な者。

参加校：宇都宮東高等学校附属中学校、徳島県立城ノ内中等教育学校、渋谷教育学園幕張中学校、洗足学園中学校、東洋英和女学院中学校、広島学院中学校、静岡聖光学院中学校、白百合学園中学校、神戸大学附属中等教育学校、筑波大学附属駒場中学校、ECC ジュニア東京練習会、合同チーム A、合同チーム B（以上11校より20チーム、64名）

Motions(論題)：

Round 1: Make up should be banned at school.

「化粧は学校で禁止されるべきである。」

Round 2: Physical education classes should be mixed together.

「体育の授業は男女一緒に行われるべきである。」

Round 3: Japanese elementary and junior high schools should encourage more classes regarding politics.

「日本の小学校や中学校は政治に関する授業をもっと増やすべきだ。」

Round 4: Living an anonymous average life is better than being a K-pop star in South Korea.

「韓国で K-pop のスターであるより匿名かつ平均的な人生を送る方がよりよい。」

試合結果：優勝：白百合学園中学校 準優勝：神戸大学附属中等教育学校 3位：渋谷教育学園幕張中学校

個人賞：1位：宇都宮東中学校 B 2位：神戸大学附属中等教育学校 A 3位：神戸大学附属中等教育学校 A

招待ジャッジ：山口洸翔（国際基督教大学）、土屋なさ（東京大学）、田島帆奈（渋谷教育学園幕張高等学校）、橋本龍之介（広尾学園高等学校）

（2）SOLA Cup 2021 中高生パラメンタリーディベート国際大会

SOLA Cup 2021 High School International Debate Tournament

共同主催：一般社団法人 日本高校生パラメンタリーディベート連盟、学校法人 渋谷教育学園渋谷中学高等学校

協力：有限責任 あずさ監査法人、iae グローバルジャパン株式会社、エイムネクスト株式会社、株式会社 EduLab、株式会社オールアバウト

趣旨：①全世界の高校生に、即典型であるパラメンタリーディベートの試合を行う機会を提供することにより、グローバル社会で活躍するのに必要とされる英語による論理的発信能力、問題発見解決能力、クリティカル・シンキング、コラボレーション力、グローバル課題や時事問題についての基礎知識、そして緩急やジェスチャー、ユーモアなどを意識した聞き手目線の分かりやすいパブリック・スピーチ力を身につける意義を伝える。

②他国のディベーターとの交流の機会となる他、日本の中高生のスピーチ力が他国の生徒との対戦で通用するのか、実力を試す機会とする。

③国際大会で度々活躍されてきたジャッジから質の高いフィードバックを受け、日本の高校生がグローバルスタンダードを知る機会とする。

日時・場所：1)予選大会 2021年8月15日（日）8：30～18：00・オンライン（Zoomを使用）

2)決勝トーナメント 2021年8月17日（火）8：30～18：30・オンライン（Zoomを使用）

内容：World School's Debating Championships (WSDC) Style（8分、8分、8分、8分、8分、8分、4分、4分。但し、予選は本大会用に修正を加え、5分、5分、5分、5分、5分、5分、3分、3分とした）による英語ディベート大会。チームの人数は3～5名（試合に出場するのは3人だが、試合ごとに選手入替可能）。予選4試合（2、3、4試合目はパワーペアリング）。各チームの勝ち数と得点ポイントで、上位8チームを決め、決勝トーナメント。

参加資格：世界中の中学・高校に在学している中学1年生から高校3年生までの生徒。チームに少なくとも1人がパラメンタリーディベート大会（HPDU, WSDC, Asian, BP, NA, etc.）の出場経験があること。また、その生徒は全ラウンドに出場すること。同一校・同一公式団体から最大1チームの参加とする。ただし、海外からの参加者は、この条件でチームを構成することが難しい場合、ジョイントも認めることとする。

参加費：無料（文部科学省 WWL ワールド・ワイド・ラーニングコンソーシアム構築事業の一環のため）

タイムテーブル：

第1日目 予選大会 Preliminary Rounds

8 : 3 0 点呼
8 : 4 5 ブリーフィング
9 : 0 0 第1試合 対戦表・論題発表 (準備時間 30 分)
9 : 4 0 第1試合 (約 50 分)
1 0 : 3 0 ジャッジによる勝敗の説明 (20 分)
1 0 : 5 0 第2試合 対戦表・論題発表 (準備時間 30 分)
1 1 : 3 0 第2試合 (約 50 分)
1 2 : 2 0 ジャッジによる勝敗の説明 (20 分)
1 2 : 4 0 休憩
1 3 : 1 0 第3試合 対戦表・論題発表 (準備時間 30 分)
1 3 : 5 0 第3試合 (約 50 分)
1 4 : 4 0 ジャッジによる勝敗の説明 (20 分)
1 5 : 0 0 第4試合 対戦表・論題発表 (準備時間 30 分)
1 5 : 4 0 第4試合 (約 50 分)
1 6 : 3 0 ジャッジによる勝敗の説明 (20 分)
1 7 : 3 5 結果発表
1 8 : 0 0 解散

第2日目 決勝トーナメント Break Rounds

8 : 3 0 点呼
8 : 4 5 ブリーフィング
9 : 0 0 SOLA 2021 開会式
9 : 3 0 準々決勝 対戦表・論題発表 (準備時間 30 分)
1 0 : 1 0 準々決勝 (約 70 分)
1 1 : 2 0 ジャッジによる勝敗の説明 (20 分)
1 1 : 4 0 準決勝 対戦表・論題発表 (準備時間 30 分)
1 2 : 2 0 準決勝 (約 70 分)
1 3 : 3 0 ジャッジによる勝敗の説明 (20 分)
1 3 : 5 0 休憩
1 4 : 1 0 決勝 対戦表・論題発表 (準備時間 30 分)
1 4 : 5 0 決勝 (約 70 分)
1 6 : 0 0 SOLA 2021 閉会式
1 8 : 0 0 結果発表
1 8 : 3 0 解散

参加校 : 以上6カ国・34校

国内 : 愛知県立千種高等学校、秋田県立角館高等学校、浅野高等学校、ECC ジュニア東京練習会、茨城県立日立第一高等学校、栄光学園高等学校、神奈川県立柏陽高等学校、高知県立高知国際中学校・高等学校、神戸市立葺合高等学校、神戸大学附属中等教育学校、さいたま市立浦和高等学校、渋谷教育学園渋谷高等学校、渋谷教育学園幕張高等学校、白百合学園高等学校、聖光学院中学校、清真学園高等学校・中学校、洗足学園中学高等学校、千代田区立九段中等教育学校、筑波大学附属駒場中・高等学校、東京都立両国高等学校、東洋英和女学院、徳島県立城ノ内中等教育学校、豊島岡女子学園、栃木県立宇都宮東高等学校、並木中等教育学校、広尾学園高等学校、三田国際学園中学校、早稲田大学高等学院

海外：White Oaks Secondary School(カナダ)、Impact Debate Academy(カナダ)、Raffles Institution(シンガポール)、Wellspring International Bilingual School(ベトナム)、Jungle Lion(台湾)、University of Santo Tomas High School(フィリピン)

Motions (論題) :

予選 Round 1 This house would require all voters to pass a basic political literacy test.
「本院は、すべての投票者に基本的な政治的リテラシーテストに合格することを義務付ける。」

予選 Round 2 This house would opt for a strategy of adaptation rather than mitigation when dealing with climate change.
「本院は、気候変動に対処する際、緩和策ではなく適応策を選択する。」

予選 Round 3 This house believes that criminal courts should treat minors who commit serious and violent crimes as adults.
「本院は、刑事裁判所は、重大かつ暴力的な犯罪を犯した未成年者を成人として扱うべきであると信じる。」

予選 Round 4 This house would set a quota for female entrepreneurs when allocating government subsidies for startup businesses.
「本院は、スタートアップビジネスに対する政府の補助金を配分する際に、女性起業家の枠を設定する。」

準々決勝 Assuming technology exists, This house would force all political candidates to provide public access to their personal beliefs.
「技術が存在するという前提で、本院は、すべての政治家候補者に、自分の個人的信念を公開することを義務付ける。」

準決勝 This house would actively promote non-marital childbearing.
「本院は、結婚せずに子供を産むことを積極的に推進する。」

決勝 This house supports the narrative that individuals should prioritize the alleviation of universal suffering over their own self-interest.
「本院は、自分の利益よりも普遍的な苦しみの軽減を優先すべきだという論題を推進する。」

予選大会結果：

順位	学校名	勝数	得点				
1	渋谷教育学園渋谷高等学校	4	1002.48	18	聖光学院中学校高等学校	2	961.52
2	渋谷教育学園幕張高等学校	4	997.00	19	柏陽高等学校	2	955.00
3	White Oaks Secondary School	3	995.00	20	千種高等学校	2	950.48
4	Impact Debate Academy	3	994.48	21	神戸大学附属中等教育学校	1	948.00
5	栄光学園中学高等学校	3	985.52	22	浦和高等学校	1	942.00
6	白百合学園中学高等学校	3	973.52	23	早稲田中学校・高等学校	1	937.52
7	Jungle Lion	3	970.48	24	三田国際学園中学校・	1	935.00

					高等学校		
8	University of Santo Tomas	3	966.48	25	東洋英和女学院中学部・高等部	1	968.00
9	九段中等教育学校	3	962.48	26	葺合高等学校	1	963.52
10	宇都宮東高等学校	3	959.00	27	筑波大学附属駒場中学校・高等学校	1	958.00
11	両国高等学校	3	951.00	28	城ノ内中等教育学校・高等学校	1	957.00
12	Wellspring International Bilingual School	2	980.48	29	洗足学園中学高等学校	1	950.00
13	広尾学園中学校高等学校	2	976.00	30	角館高等学校	1	946.00
14	東京都立国際高等学校	2	969.52	31	ECC junior	1	937.00
15	Raffles Institute	2	968.00	32	並木中等教育学校	0	960.48
16	清泉学園高等学校・中学校	2	965.52	33	日立第一高等学校・附属中学校	0	935.00
17	浅野中学校・高等学校	2	964.00	34	豊島岡女子学園中学校・高等学校	0	926.00

ベストスピーカー：

順位	高校名	名前	得点
1	渋谷教育学園渋谷高等学校	Yuto Kida	290.00
2	渋谷教育学園幕張高等学校	Ryo Narukami	286.48
3=	White Oaks Secondary School	Elaine Jiang	214.5
3=	渋谷教育学園渋谷高等学校	Wakana Furuta	143.00
3=	White Oaks Secondary School	Athena Zhuang	214.50
6	栄光学園中学高等学校	Ryusei Okamura	213.99
7=	渋谷教育学園幕張高等学校	Ryo Ouchi	284.48
7=	Impact Debate Academy	Nicole Sun	284.48
7=	Impact Debate Academy	Stella Mizak	284.48
10=	Raffles Institute	Woon Tien Eu	142.00

10=	渋谷教育学園渋谷高等学校	Misaki Taniguchi	284.00
10=	渋谷教育学園渋谷高等学校	Ayana Shimada	142.00

決勝大会結果：

優勝：White Oaks Secondary School

準優勝：渋谷教育学園渋谷高等学校

3位：栄光学園中学高等学校、渋谷教育学園幕張高等学校

5位：白百合中学高等学校、University of Santo Tomas High School、Impact Debate Academy、Jungle Lion

招待ジャッジリスト：

1. Joshua Park (Dean/Professor at SolBridge International School of Business, WSDC: CA/CAP: 2007, 2016, 2020, 2021, Judge break: 2005-2021, 5x Grand Final Panel, Board of Directors/Executive Committee: 2010-present, Other recent tournaments as CA/CAP:Oxford WSDC, Oldham Cup, Singapore Pre-WSDC, Tournament of Champions, SIDO, HKDO, CBP, QDO, GBADO, TDO, CIV, Australs, SMU Hammers, KIDA Open, etc.) Other judge breaks/top judge awards:WUDC, ABP, UADC, NEADC, ICUT, KNC, etc.,)
2. Akira Kato/加藤彰 (Alumni Association Adviser, Tokyo, CAP)
3. Ayaka Sugimoto/杉本絢香 (東京大学ディベート部1年, WSDC 2019 EFL 5th best team, WSDC 2020 EFL Best team, EFL 3rd best speaker, HPDU 全国大会 2020 Best speaker, チーム準優勝)
4. Rina Kajitani/梶谷凜奈 (東京大学ディベート部1年, WSDC 2020 best EFL team, best EFL speaker, HPDU 2019 優勝, ICU Tournament quarter-finalist)
5. Kana Kanzaki/神崎花南 (慶應義塾大学ディベート部1年, WSDC Japan 2020, HPDU Best Speaker, PDA Best Speaker & Team)
6. Mitsushi Ono/小野 暢思 (President of Tokyo Debate Academy, Chief Coach of HPDU, Founder of SAD, WUDC 2015 ESL Quarter Finalist, 33 times champion, DCA of Nationals, CA of several high school championships)
7. Kanako Endo/遠藤 可奈子 (東京大学ディベート部1年, PDA 世界大会優勝、HPDU 全国大会準優勝)
8. Melvin Lai (Teacher at 東洋英和女学院, NSDA/NFL public forum, HPDU, Henda, PDA national tournaments.)
9. Do Chau Giang
10. Isao Ayabe/綾部功 (東海大学教授, Debater: Semifinalist in Kyushu Cup (currently Kyushu Debate Open) in 2015 and in 2016 Adjudicator: Breaking adjudicator in Japan BP in 2019)
11. Doan Duc Huy (Constitutional Writer at Vietnam Debate Association, My Adjudication CV-CAships Core Adjudicator in Socialism Open British Parliamentary 2021. Deputy Core Adjudicator in Zimbabwe Debating Premier League Elimination round British Parliamentary 2021, Core Adjudicator in Prime Debates WSDC 2021. Core Adjudicator in Euphoria Novice Debate Open British Parliamentary 2021. Core Adjudicator in History Open BP 2021. IAShips Invited Adjudicator in Linkdate Debate Championship British Parliamentary 2021. Invited Adjudicator in Pratijsa KIIT Asian Parliamentary 2021. Invited Adjudicator in Anime Open Asian Parliamentary 2021. Invited Adjudicator in RBS WSDC 2021. Invited Adjudicator in Prague Debate Spring WSDC 2021. Open Quarter Final Panel. Independent Adjudicator in Dutch Schools WSDC Open 2021. Novice Grand Final Panel.

Independent Adjudicator in Protea Worlds WSDC 2021. Open Quarter Final Panel. Invited and Breaking Adjudicator in Hong Kong International Debate Open British Parliamentary 2021. Novice Final Panel. Invited and Breaking Adjudicator in Hong Kong School debate Open WSDC 2021. Open Quarter Final Panel. Invited and Breaking Adjudicator in Mahakumbha Open WSDC 2021. Open Grand Final Panel. Invited and Breaking Adjudicator in Vidhushe British Parliamentary 2021. Open Grand Final Panel. Independent Adjudicator in America's Cup British Parliamentary 2021. Open Semi Final Panel. Second Best Adjudicator in Royal Rhetorics Anniversary Cup BP 2021. Open Grand Final Panel. Second Best Adjudicator in Royalty pact Debating academy internals BP 2021. Open Grand Final Panel. Third Best Adjudicator in Come Up SADC Open BP 2020. Open Silver Final Panel. Third Best Adjudicator in Covenant IV BP 2021. Open Grand Final Panel. Invited Adjudicator in Shahjalal University Debating Society Fundraiser BP 2021. Open Grand Final Panel. Invited Adjudicator in DCA Genders Asian Parliamentary 2021. Invited Adjudicator in Adamjee WSDC 2021. Open Novice Final Panel. Breaking Adjudicator in Jozi Rumble British Parliamentary 2021. Open Quarter Final Panel. IA×10(including Theology Cup BP 2021, Queer Open Round Robin invitational 2021, Chirec PD WSDC 2021.))

12. Minami Kurokami/黒神みなみ (団体職員, HPDU 2014 準優勝, HPDU 2015 優勝 ICUT 2016 11th Best Speaker Philippine Debate Open 2016 Grand Final Adjudicator)
13. Mizuki Kitada/北田瑞希 (九州大学ディベート部 OG, ディベート: JPDU Parliamentary Debate Union Autumn Tournament 2020 QFlist, Aoyama Women's Cup 2020 GFlist、ジャッジ: BP Novice West 2019 決勝戦ジャッジ, Ryoso Cup 2019 準決勝ジャッジ)
14. Naoki Enomoto/榎本直樹 (Titech ESS 卒業生, NEAO 2015 Open Semi Finalist QDO 2017 Quarter Finalist, Best Speaker, Nagoya Debate Open 2021, Best Adjudicator, JPDU Spring Tournament 2021, 6th Best Adjudicator, JPDU Spring Tournament 2019, Breaking Adjudicator, ICU Tournament 2015)
15. Mizuki Kusaka/日下瑞樹 (大阪府立大学 OB <BP> JPDU autumn tournament 2019 breaking adjudicator, JPDU autumn tournament 2020 breaking adjudicator, KK-CUP 2019 5th best adjudicator <NA> Umeko cup 2019 8th best adjudicator <Asian> JPDU spring tournament 2019 breaking adjudicator, Gemini cup 2019 breaking adjudicator, Gemini cup 2020 9th best adjudicator <AC> THE kansai 2013 DCA, Momiji Cup 2014 DCA, K-cup 2019 DCA)
16. Kota Jodoi/上土井宏太 (九州大学附属図書館職員, Ryoso Cup 2020 準々決勝進出 Kyushu Debate Open 2019 準決勝進出)
17. Riku Saito/齋藤陸 (慶應義塾大学ディベートサークル3年, Taylor's Debate Open 2020 (Open Best Speaker/Quarterfinalist) Nagoya Debate Open 2020 (Best Speaker/Quarterfinalist) JPDU Autumn Tournament 2020 (7th Best Speaker/Semifinalist))
18. Jonathan Borock (Debate Coach at Beihang University, Singapore Pre WUDC 2004 Champion, Japan Pre WUDC 2005 Champion, Haru T 2006 Champion, Titech Champion 2007, 20011, Titech Best Adjudicator 2017)
19. Daisuke Kubo/久保大輔 (元近畿大学英語研究会所属, The Kansai Semi Finalist 2015, 2020, Winner of BP novice West 2015, 2016 NEAO EFL Quarter Finalist 2016, Japan BP Quarter Finalist 2017, ICUT Quarter Finalist 2018, Golden Cup Grand Finalist 2018, 2019, Keio Debate Open 2021)
20. Tomoyuki Suda/須田 智之 (筑波大学附属駒場中・高等学校教諭, QDO 2019 Quarterfinalist)
21. Tota Takahashi/高橋 陶太 (東京大学, Open Quarter Finalist, ESL 9th Best Speaker, WUDC

2021, Open 2nd Breaking Team, Open 7th & EFL Overall Best Speaker, 2nd Best Reply Speaker, UADC 2020, Champion, 3rd Best Speaker, NEADC 2020, ESL Final Judge, Australs 2020, EFL Final Judge, UADC 2019, CA, Sydney Mini 2020)

22. Masaru Urano/浦野 眞 (早稲田大学英語ディベート会 OB, Quarterfinalist of HPDU 2014, Champion of JPDU Spring Tournament 2018, Semifinalist of Hong Kong Debate Open 2017, CUDS Open 2021)

他3名

ボランティア：運営委員9名、大学生3名、社会人4名【合計】16名

HPDU 役員以外の運営委員：隅佑香、藤村はる、下山優里香、清水美那、杉本絢香、梶谷凜奈、神崎花南、Vũ Anh Tuấn、阿部万里花、池田碧月、石井誠子、児玉真吾、漆原奏江

特記事項：日本初、高校生が運営した国際ディベート大会

(3) 模擬 G7 サミット 2021 GENDER EQUALITY ～職場での女性エンパワメント。今中高生の私たちができること～

Model G7 Summit 2021

令和元年度より、文部科学省は、Society5.0 時代に向けて、イノベーティブなグローバル人材を育成する事を目的とし、高等学校と国内外の大学・企業・国際機関等と協働し、高校生国際会議の開催等、高校生へ高度な学びを提供するネットワークの形成を目指す WWL(ワールド・ワイド・ラーニング)コンソーシアム構築事業を実施しています。Model G7 Summit 2021 は、本事業の一環として、その拠点校である渋谷教育学園渋谷中学高等学校が オンラインで実施する「学びのオリンピック SOLA(Shibuya Olympiad of Liberal Arts)2021」の一種目として開催されました。

主催：一般社団法人 日本高校生パラメンタリーディベート連盟 (HPDU of Japan)

後援：(公財)日本ユニセフ協会、Knovva Academy

協力：

趣旨：①グローバルリーダーにとって必要なスキルを育成するための実践練習の場を提供する。

②高校生の社会貢献活動や社会参画についての意識を高めるとともに、企画・運営力を育成する。

③様々なバックグラウンドを持つ中高生が同じ社会問題に対して向き合い、具体的な解決案を共有することで、各人が自らの学校やコミュニティで行動を起こす動機付けとする。

内容：ジェンダー平等実現のために、中高生である自分たちに何ができるのか、英語又は日本語でディスカッションし、英語で発表した。

日時：2021年8月17日(火)9:30～16:00 JST

場所：オンライン

手段：Zoom, SLACK (連絡用)

参加条件：中学生または高校生であること

参加費用：無料

当日のスケジュール：

9:30 受付 (Zoom での入室開始)

10:00 開会の辞 オープニングスピーチ：小林りんさん (UWC ISAK Japan 代表理事)

10:20 基調講演/Key note speech 石川智尋さん (ハーバード大学で GENDER EQUALITY を研究)

10:50 運営によるプレゼンテーション・瀬地山角東京大学教授のよるビデオレクチャー

11:10 グループディスカッション・発表準備

12:00 昼食

12:40 各グループによる発表準備 (Google スライドの作成など)

13:40 各グループによる発表・質疑応答

15:25 振り返り

15:35 審査発表

16:00 解散

参加校：大阪市立豊崎中学校、大妻中野高等学校、春日井市立鷹来中学校、熊本県立熊本商業高校、慶應湘南藤沢中等部、神戸市立葺合高等学校、埼玉県立大宮高等学校、渋谷教育学園渋谷中学高等学校、渋谷教育学園幕張中学高等学校、洗足学園中学高等学校、多摩大学目黒高等学校、東京大学教育学部附属中等教育学校、東洋英和女学院高等部、栃木県立佐野高等学校、富山市立南部中学校、広島女学院高等学校、本郷高等学校、早稲田佐賀高等学校、Beijing National Day School (中国)、Loreto College (オーストラリア)、Yobhel Christian Academy (フィリピン)、Pearson College UWC (カナダ)、Poona College (インド) 計 23 校
運営委員：池田碧月、石井誠子、江口花音、栗原璃音、児玉慎吾、清水萌絵 (以上 6 名 渋谷教育学園渋谷高等学校 2 年)

ファシリテーター：伊藤優希、河村すず、久米本紗季、柴田瑚子、中村香音、二井春香、吉村美咲 (以上 7 名 渋谷教育学園渋谷中学高等学校)

ゲスト：小林りんさん (UWC ISAK Japan 代表理事) によるオープニングスピーチ、ハーバード大学で GENDER EQUALITY を研究している石川智尋さんによるフェミニズム全般についてのプレゼンテーション、ジェンダー論を専門とする瀬地山角東京大学教授による高等教育における男女格差の原因に関するビデオレクチャー、J 7 サミット 2015 日本代表として独メルケル首相と意見交換した足立愛音さん (東京大学法学部 4 年) と石川智尋さん (上記) によるプレゼン審査とアドバイス。

(4) 日本高校生パラメンタリーディベート連盟西日本オープン小中学生大会 2021

HPDU of Elementary & Junior High School West Japan Open 2021

主催：一般社団法人 日本高校生パラメンタリーディベート連盟

後援：有限責任 あずさ監査法人、iae グローバルジャパン株式会社、エイムネクスト株式会社、株式会社 EduLab、株式会社オールアバウト

趣旨：①全国、特に西日本の小中学生に、即興型であるパラメンタリーディベートの試合を行う機会を提供することにより、グローバル社会で活躍するのに必要とされる英語による論理的発信能力、問題発見解決能力、クリティカル・シンキング、コラボレーション力、グローバル課題や時事問題についての基礎知識、そして緩急やジェスチャー、ユーモアなどを意識した聞き手目線の分かりやすいパブリック・スピーチ力を身につける意義を伝える。

②高校生の社会貢献活動や社会参画についての意識を高めるとともに、企画・運営力を育成する。また、ジャッジの役割を通して、自己のディベート力を向上させる。

日時：2021 年 12 月 12 日 (日) 9:00-17:00

場所：オンライン (英語ディベート専用のプラットフォーム Mixidia を、モーションや対戦表の発表などには LINE を使用)

日程：9:00-9:30 Registration

9:30-9:50 Opening Ceremony

10:00-11:10 Round1

11:30-12:40 Round2

12:50-13:30 Lunch

13:30-14:40 Round3

15:00-16:10 Round4

16:40-17:00 Closing Ceremony

スピーチの形式：短縮型ノースアメリカンスタイル（4分、4分、4分、4分、3分、3分）Constructive speechが4分で、Reply speechが3分。4試合数4試合（2試合以降はパワーペアリング）を予定。参加チームによって変更あり。1チーム3名、4試合（2試合目以降はパワーペアリング）、準備時間は20分。

参加資格：小中学生（留学生、帰国生、外国籍の生徒も含む）。※学校、個人での申込み共に可能。チームの人数は3から5名（1試合に出場するのは3人だが、試合ごとに選手入替可能）。参加を希望するが人数が足りない場合は、運営側で他の個人申込者と組み合わせてチームを用意。※ディベート経験のある小学生の参加も可とする。

参加費：一人につき 1,000 円

ジャッジ：高校生ディベーターと招待ジャッジが行う。高校生ジャッジは、18か月以上のパラメンタリーディベート経験がある高校生で、公正なジャッジと勝敗の説明・アドバイスが可能な者。

参加校：徳島県立城ノ内中学校、栃木県立宇都宮東中学校、洗足学園中学校、神戸大附属中等教育学校、京都橘中学校、渋谷教育学園渋谷中学校、翔凛中学校、静岡聖光学院中学校、私立武蔵中学校、東洋英和女学院中学校、湘南白百合中学校、桜蔭中学校、白百合学園中学校、三田国際中学校、高槻中学校、聖光学院高等学校、獨協中学校、E C C（以上18校より39チーム、137名）

Motions(論題)：

Round 1: THW ban animal testing.

「動物実験は禁止されるべきである。」

Round 2: THW ban escalator schools.

「大学系列のエスカレーター式の学校は廃止されるべきである。」

Round 3: THW force all social media users to use their real names.

「すべてのソーシャルメディアは使用者に実名を使わせるべきだ。」

試合結果：優勝：洗足学園中学校 A 準優勝：洗足学園中学校 B、渋谷教育学園渋谷中学校 B、広尾学園中学校 A 5位：渋谷教育渋谷中学校 A

個人賞：1位：広尾学園中学校 C 2位：広尾学園中学校 C 3位：洗足学園中学校 B

招待ジャッジ：田島帆奈（渋谷教育学園幕張高等学校）、下園絢音（鹿児島県立鶴丸高等学校）、金子大地（筑波大学附属高等学校）、坪田彩華（広尾学園高等学校）、伊藤杏珠（渋谷教育学園渋谷高等学校）、須賀茉莉愛（広尾学園高等学校）、小倉思帆ケリー（広尾学園高等学校）、浪花香織子（広尾学園高等学校）、田中美月（神戸大学附属中等教育学校）、三村理子（白百合学園高等学校）、鈴木健太（広尾学園高等学校）、原美鈴（兵庫県立葺合高等学校）、菅原淳（関東第一高等学校）、佐藤怜奈（関東第一高等学校）、池田瞳（関東第一高等学校）、宮澤愛花（国際基督教大学）、前田和寿（成蹊大学）、丹羽典子（楽天コミュニケーションズ）

（4）第4回 HPDU 中学生パラメンタリーディベート大会

HPDU Middle School Competition 2022

主催：一般社団法人 日本高校生パラメンタリーディベート連盟 (HPDU of Japan)

協賛：有限責任 あずさ監査法人 (KPMG AZSA LLC)

協力：iae グローバルジャパン株式会社、エイムネクスト株式会社、株式会社 EduLab、株式会社オールアバウト

趣旨：①全国の中学生に、即興型であるパラメンタリーディベートの試合を行う機会を提供することにより、グローバル社会で活躍するのに必要とされる英語による論理的発信能力、問題発見解決能力、クリティカル・シンキング、コラボレーション力、グローバル課題や時事問題についての基礎知識、そして緩急やジェスチャー、ユーモアなどを意識した聞き手目線の分かりやすいパブリック・スピーチ力を身につける意義を伝える。

②高校生の社会貢献活動や社会参画についての意識を高めるとともに、企画・運営力を育成する。また、ジャッジの役割を通して、自己のディベート力を向上させる。※高校生ジャッジは、18か月以上のパラメンタリーディベート経験があり、公正なジャッジと勝敗の説明・アドバイスが可能な者に限る。

日時：2022年2月23日(水) 9:00～17:00

場所：オンライン (Zoom、LINE) にて実施

参加費：1チーム 3000円、個人参加は1000円

参加資格：中学生(留学生、帰国生、外国籍の生徒も含む)。学校、個人での申し込み共に可能。学校単位で申し込む場合は1校につき2チームまで。チームの人数は3～5名(試合に出場するのは3人だが、試合ごとに選手入替可能)。人数が足りない場合は、運営側で他の個人申込者と組み合わせてチームを用意。

試合形式：短縮型ノースアメリカン・スタイル [4分、4分、4分、4分、3分、3分] (Constructive speech が4分で、Reply speech が3分)。論題発表から試合開始までの準備時間は20分間。4試合数4試合(2試合以降はパワーペアリング)。

参加校：浅野中学校、市川中学校、栄光学園中学校、桜蔭中学校、攻玉社中学校、渋谷教育学園渋谷中学校、渋谷教育学園幕張中学校、翔凜中学校、聖光学院中学校、洗足学園中学校、鷹来中学校、高槻中学校、筑波大学附属駒場中学校、東洋英和女学院、徳島県立城ノ内中等教育学校、栃木県立宇都宮東高等学校附属中学校、南山中学校女子部、広尾学園中学校、広島学院中学校、三田国際学園中学校、茗溪学園中学校、ラ・サール中学校、ECCジュニア東京練習会 (以上22校と1団体より32チーム、119名)

Motions(論題)：

Round 1: THW implement female quotas in parliament

「本院は、議会で女性クオータを導入する。」

Round 2: THBT discussion-based classes are better than lecture classes

「本院は、ディスカッションベースの授業は講義ベースの授業よりも優れているとする。」

Round 3: THW ban cars in cities

「本院は、都会で車を禁止する。」

Round 4: THW allow performance enhancing drugs in professional sports

「本院は、プロフェッショナルスポーツにおいて能力強化薬物の使用を許可する。」

試合結果：

優勝：渋谷教育学園幕張中学校、準優勝：東洋英和女学院、3位：聖光学院中学校

ベストスピーカー賞：1位(同率)：鐘ヶ江征治(渋谷教育学園幕張中学校)、茂木夏希(浅野中学校)、
2位：大石律貴(広島学院中学校) 3位 廣瀬莉子(東洋英和女学院)

ボランティア：運営委員18名、社会人2名、大学生3名、高校生13名【合計36名】

高校生運営委員：清水萌絵、栗原璃音、藤村はる、江口花音、下山優里香、池田碧月、児玉慎吾、福永祥子、古田和佳奈、島田絢菜、伊藤杏珠、漆原奏江、根来一葉、酒井萌々香、河瀬咲弥、古川華帆

(以上 16 名 渋谷教育学園渋谷高校)

高校生ジャッジ：中嶋大耀（栄光学園高等学校）、佐藤諒以（栄光学園高等学校）、真柄龍（栄光学園高等学校）、服部恭弥（宇都宮東高校）、大谷紗也乃（宇都宮東高校）、榎根ほのか（栃木県立宇都宮東高校）、小日向大和（渋谷教育学園幕張高等学校）、吉田菜智（栃木県立宇都宮東高等学校）、田島帆奈（渋谷教育学園幕張高等学校）、深見太一（福井県立藤島高等学校）、沈延禹（広尾学園高校）、栗原璃音（渋谷教育学園渋谷高等学校）、谷口美幸（渋谷教育学園渋谷高等学校）、伊藤杏珠（渋谷教育学園渋谷高等学校）、児玉慎吾（渋谷教育学園渋谷高等学校）、古川華帆（渋谷教育学園渋谷高等学校）、漆原奏江（渋谷教育学園渋谷高等学校）、池田碧月（渋谷教育学園 渋谷高等学校）、根来一葉（渋谷教育学園渋谷高等学校）、金子周平（聖光学院高校）

招待ジャッジ：Melvin Lai、塩原洋二、梶谷凜奈、スミス理紗、Sena Kim

(5) 第 11 回日本高校生パラメンタリーディベート連盟杯

HPDU Competition 2022 (Co-sponsored by HPDU and ESUJ)

共同主催：一般社団法人 日本高校生パラメンタリーディベート連盟、一般社団法人 日本英語交流連盟

後援：文部科学省、ブリティッシュ・カウンシル、カナダ大使館

特別協賛：有限責任 あずさ監査法人

協賛：公益財団法人 日本英語検定協会、iae グローバルジャパン株式会社、株式会社テレビ東京、キヤノン株式会社、キヤノンマーケティングジャパン株式会社、ANA ホールディングス株式会社

メディアパートナー：読売新聞社

協力：株式会社アルク、イーエムティー株式会社、エイムネクスト株式会社、株式会社E d u L a b、株式会社オールアバウト、公益財団法人 日本フィルハーモニー交響楽団、株式会社トモノカイ

趣旨：全国の高校生に、即興型であるパラメンタリーディベートの試合を行う機会を提供することにより、グローバル社会で活躍するのに必要とされる英語による論理的発信能力、問題発見解決能力、クリティカル・シンキング、コラボレーション力、グローバル課題や時事問題についての基礎知識、そして緩急やジェスチャー、ユーモアなどを意識した聞き手目線の分かりやすいパブリック・スピーチ力を養う。また、参加者間の交流を図り、共に学び合う関係を作る。

日時：1) 都道府県大会 2022 年 1 月 4 日（火）～2 月 11 日（金・祝）

2) 全国大会予選（44 チームを予定）2022 年 3 月 26 日（土）8:50～17:45 頃

3) 決勝トーナメント（上位 8 チーム）2022 年 3 月 27 日（日）9:00～16:00 頃

場所：都道府県大会は各地域で決定、全国大会予選と決勝トーナメントは Zoom、LINE にて実施

参加費：1 チームにつき 3,000 円

内容：World School's Debating Championships(WSDC) Style（但し本大会用に修正を加えたもの）による英語ディベート大会 1 チーム 3 名、予選 4 試合（2、3、4 試合目はパワーペアリング）各チームの勝ち数と得点ポイントで、上位 8 チームを決め、決勝トーナメント

全国大会参加資格：日本に住所がある高校に在学している学生(留学生、帰国生徒、外国籍の生徒も含む)のうち、日本高校生パラメンタリーディベート連盟に公式認定された各都道府県大会に参加して出場権を獲得した高校の生徒、または本連盟より特別に出場権を与えられた者（同一都道府県内の出場希望校が一枚のみであった場合など）。

タイムテーブル：

第 1 日目 予選

- 8:50 点呼、開会式
- 9:20 第1試合 対戦表・論題発表（準備時間 20分）
- 9:45 第1試合（約 50分）
- 10:35 ジャッジによる勝敗の説明（30分）
- 11:25 第2試合 対戦表・論題発表（準備時間 20分）
- 11:55 第2試合（約 50分）
- 12:45 ジャッジによる勝敗の説明（30分）
- 13:15 休憩（昼食）
- 13:50 第3試合 対戦表・論題発表（準備時間 20分）
- 14:15 第3試合（約 50分）
- 15:05 ジャッジによる勝敗の説明（30分）
- 15:55 第4試合 対戦表・論題発表（準備時間 20分）
- 16:25 第4試合（約 50分）
- 17:15 ジャッジによる勝敗の発表なしのアドバイス（20分）
- 17:35 解散（結果発表は SNS で行います）

第2日目 決勝トーナメント

- 9:00 点呼
- 9:30 準々決勝 対戦表・論題発表（準備時間 25分）
- 10:00 準々決勝（約 50分）
- 11:15 準決勝 対戦表・論題発表（準備時間 25分）
- 11:40 準決勝（約 50分）
- 12:30 休憩（昼食）
- 13:00 決勝 対戦表・論題発表（準備時間 25分）
- 13:30 決勝（約 60分）
- 15:00 閉会式

都道府県大会参加校：

- 愛知県（4）愛知県立旭丘高等学校、愛知県立岡崎高等学校、愛知県立千種高等学校、東海高等学校
- 茨城県（8）茨城県立竹園高等学校、茨城県立日立第一高等学校、茨城県立藤代高等学校、茨城県立古河第三高等学校、茨城県立水戸第一高等学校、茨城県立水戸第二高等学校、清真学園高等学校、東洋大学附属牛久高等学校
- 岩手県（3）岩手県立一関第一高等学校、岩手県立一関第二高等学校、岩手県立盛岡一第一高等学校
- 大阪府（1）関西創価高等学校
- 岡山県（4）岡山県立岡山朝日高等学校、岡山県立岡山大安寺中等教育学校、岡山県立岡山城東高等学校、岡山県立津山東高等学校
- 鹿児島県（6）鹿児島県立大島高等学校、鹿児島県立鹿児島中央高等学校、鹿児島県立甲南高等学校、鹿児島県立鶴丸高校、鹿児島情報高等学校、ラ・サール高等学校
- 神奈川県（12）浅野高等学校、栄光学園高等学校、湘南白百合学園高等学校、神奈川県立厚木高等学校、神奈川県立相模原高等学校、神奈川県立湘南高等学校、神奈川県立多摩高等学校、神奈川県立柏陽高等学校、カリタス女子高等学校、慶應義塾高等学校、慶應義塾湘南藤沢高等部、桐光学園高等学校
- 埼玉県（5）浦和明の星女子高等学校、埼玉県立伊奈学園総合高等学校、埼玉県立大宮高等学校、埼玉県

立蕨高等学校、さいたま市立浦和高等学校

静岡県(13) 加藤学園暁秀高等学校、静岡県立清水東高等学校、静岡県立浜松北高等学校、静岡県立浜松湖南西高等学校、静岡県立浜松西高等学校、静岡県立藤枝東高等学校、静岡県立三島北高等学校、静岡県立吉原高等学校、静岡雙葉高等学校、星稜高等学校、常葉大学附属橘高等学校、浜松開誠館高等学校、藤枝明誠中学校高等学校

千葉県(7) 芝浦工業大学柏高等学校、渋谷教育学園幕張高等学校、翔凜高等学校、千葉市立稲毛高等学校、千葉県立佐倉高等学校、千葉県立船橋高等学校、千葉県立松戸国際高等学校

東京都(18) 攻玉社高等学校、渋谷教育学園渋谷高等学校、白百合学園高等学校、成蹊高等学校、千代田区立九段中等教育学校、筑波大学附属駒場高等学校、東京都立小石川中等教育学校、東京都立国際高等学校、東京都立田柄高等学校、東京都立千早高等学校、東京都立富士高等学校、東京都立両国高等学校、東洋英和女子学院高等部、豊島岡女子学園高等学校、獨協高等学校、広尾学園高等学校、三田国際学園高等学校、早稲田大学高等学院

徳島県(1) 徳島県立城之内高等学校

栃木県(8) 宇都宮短期大学附属高等学校、作新学院高等学校、栃木県立宇都宮高等学校、栃木県立宇都宮女子高等学校、栃木県立宇都宮東高等学校、栃木県立大田原高等学校、栃木県立大田原女子高等学校、栃木県立佐野高等学校

富山県(1) 富山国際大学付属高等学校

長野県(1) 長野県屋代高等学校

兵庫県(2) 神戸市立葺合高等学校、神戸大学附属中等教育学校

福井県(1) 福井県立藤島高等学校

山梨県(1) 山梨県立甲府西高等学校

(以上 96 校)

全国大会参加校：

岩手県 岩手県立一関第一高等学校

茨城県 清真学園高等学校・中学校、茨城県立日立第一高等学校、茨城県立竹園高等学校

栃木県 栃木県立宇都宮高等学校、栃木県立宇都宮東高等学校、栃木県立宇都宮女子高等学校

埼玉県 さいたま市立浦和高等学校、埼玉県立大宮高等学校

千葉県 渋谷教育学園幕張高等学校、芝浦工業大学柏高等学校、翔凜高等学校

東京都 渋谷教育学園渋谷高等学校、千代田区立九段中等教育学校、広尾学園高等学校、白百合学園高等学校、三田国際学園高等学校、成蹊高等学校、筑波大学附属駒場高等学校、東京都立両国高等学校・附属中学校

神奈川県 浅野高等学校、栄光学園高等学校、湘南白百合学園高等学校、神奈川県立柏陽高等学校、カリタス女子高等学校

富山県 富山国際大学付属高等学校

福井県 福井県立藤島高等学校

山梨県 山梨県立甲府西高等学校

長野県 長野県屋代高等学校

静岡県 加藤学園暁秀高等学校、静岡県立藤枝東高等学校、学校法人誠心学園浜松開誠館高等学校、静岡県立浜松西高等学校、静岡県立浜松北高等学校、静岡県立吉原高等学校

愛知県 東海高等学校、愛知県立千種高等学校

大阪府 関西創価高等学校

兵庫県 神戸市立葺合高等学校
 岡山県 岡山県立岡山城東高等学校、岡山県立津山東高等学校
 徳島県 徳島県立城ノ内中等教育学校
 鹿児島県 鹿児島県立鶴丸高等学校、鹿児島県立大島高等学校

(44高校44チーム132名)

Motions (論題) :

- 予選 Round 1 This House believes that the tourism industry does more harm than good for the citizens of developing countries.
- 予選 Round 2 This House, as the feminist movement, would advocate for the abolishment of boys-only and girls-only schools.
- 予選 Round 3 This House would grant senior military officers a veto over military decisions made by politicians (e.g. troop deployments, specific missions).
- 予選 Round 4 This House would make the number of votes an individual has inversely proportional to their wealth (i.e. the more wealth an individual has the fewer votes that individual has).
- 準々決勝 This House prefers a world in which those accused of crimes remain completely anonymous to the public unless they receive a guilty verdict.
- 準決勝 This House believes that the assassination of political leaders is a legitimate tool of foreign policy.
- 決勝 This House supports athletes using international sporting events (the Olympics, World Baseball Classic, FIFA World Cup, etc.) as platforms to protest and raise political stances.

予選大会結果:

順位	学校名	勝数	得点	順位	学校名	勝数	得点
1	渋谷教育学園幕張高等学校	4	1098.5	23	徳島県立城ノ内中等教育学校	2	1058.5
2	筑波大学附属駒場高等学校	4	1089.0	24	カリタス女子高等学校	2	1052.0
3	さいたま市立浦和高等学校	4	1066.5	25	栃木県立宇都宮東高等学校	2	1051.0
4	広尾学園高等学校	3	1099.0	25	関西創価高等学校	2	1051.0
5	栄光学園高等学校	3	1088.5	27	芝浦工業大学柏高等学校	2	1050.5
6	栃木県立宇都宮高等学校	3	1081.5	28	愛知県立千種高等学校	2	1049.5
7	浅野高等学校	3	1080.5	29	栃木県立宇都宮女子高等学校	2	1046.0
8	千代田区立九段中等教育学校	3	1078.0	30	茨城県立竹園高等学校	2	1042.0
9	白百合学園高等学校	3	1075.5	31	鹿児島県立大島高等学校	1	1063.0
10	東京都立両国高等学校	3	1075.0	32	山梨県立甲府西高等学校	1	1057.5
11	茨城県立日立第一高等学校	3	1069.0	33	神戸市立葺合高等学校	1	1054.5
12	東海高等学校	3	1068.0	34	富山国際大学付属高等学校	1	1048.5
13	湘南白百合学園高等学校	3	1059.0	35	長野県屋代高等学校	1	1045.0
14	岡山県立岡山城東高等学校	3	1057.5	36	静岡県立浜松北高等学校	1	1044.0
15	渋谷教育学園渋谷高等学校	2	1071.0	37	成蹊高等学校	1	1042.0

15	神奈川県立柏陽高等学校	2	1071.0	38	福井県立藤島高等学校	1	1036.5
17	三田国際学園高等学校	2	1067.0	39	静岡県立浜松西高等学校	1	1035.5
18	清真学園高等学校・中学校	2	1065.5	40	静岡県立吉原高等学校	1	1028.0
19	翔凜高等学校	2	1063.0	41	岡山県立津山東高等学校	1	1023.0
20	岩手県立一関第一高等学校	2	1060.0	42	加藤学園暁秀高等学校	0	1049.0
20	埼玉県立大宮高等学校	2	1060.0	43	静岡県立藤枝東高等学校	0	1033.5
22	鹿児島県立鶴丸高等学校	2	1059.5	44	浜松開誠館高等学校	0	1021.0

ベストスピーカー：

順位	学校名	名前	得点
1	広尾学園高等学校	Yeonwoo Sim	318
2	渋谷教育学園幕張高等学校	Ryo Narukami	318
3	筑波大学附属駒場高等学校	Tomoya Ono	313
4	渋谷教育学園幕張高等学校	Ryo Uuchi	312
4	広尾学園高等学校	Ayaka Tsubota	312
4	栄光学園高等学校	Ryusei Okamura	312
7	栃木県立宇都宮高等学校	Haruki Sadaoka	311
7	筑波大学附属駒場高等学校	Chihaya Oba	311
9	渋谷教育学園幕張高等学校	Hannah Tajima	310
9	筑波大学附属駒場高等学校	Seiichiro Tsutagawa	310
9	東京都立両国高等学校・附属中学校	Takei Yuto	310
9	栄光学園高等学校	Ichi Nagata	310
9	神奈川県立柏陽高等学校	Ko Usui	310
14	栃木県立宇都宮高等学校	Nari Tomitaka	309
14	渋谷教育学園渋谷高等学校	Kanon Eguchi	309
14	千代田区立九段中等教育学校	Hinano Haraguchi	309
14	千代田区立九段中等教育学校	Masumi Iwai	309
14	広尾学園高等学校	Shiho Kelly Ogura	309
14	白百合学園高等学校	Riho Takahashi	309
14	浅野高等学校	Yudai Kubota	309
14	浅野高等学校	Sano Tomoaki	309
14	栄光学園高等学校	Hiroaki Nakajima	309

決勝大会結果：

優勝：栄光学園高等学校

準優勝：筑波大学附属駒場高等学校

3位：さいたま市立浦和高等学校、千代田区立九段中等教育学校

5位：渋谷教育学園幕張高等学校、広尾学園高等学校、栃木県立宇都宮高等学校、浅野高等学校

招待ジャッジリスト：

1 小野暢思 Mitsushi Ono 審査委員長/慶應義塾大学KDS OB 32 times champion

2 齋藤陸 Riku Saito 慶應義塾大学3年、渋谷教育学園渋谷OB 第7回HPDU杯全国大会 優勝・ベストス

ピーカー、Taylor's Debate Open 2020 Open Best Speaker

- 3 久保大輔 Daisuke kubo 近畿大学 英語研究会 OB
- 4 光永隼也 Shunya Mitsunaga 大阪大学
- 5 大村圭史 Yoshifumi Omura 名古屋大学ディベート部OB
- 6 金子周平 Shuhei Kaneko 聖光学院高校3年
- 7 綾部功 Isao Ayabe 東海大学教授
- 8 白鳥優子 Yuko Shiratori 渋谷教育学園渋谷高等学校教諭
- 9 水谷友哉 Tomoya Mizutani 筑波大学附属駒場高等学校 3年
- 10 張沢立 Takuritsu Cho 慶應義塾大学 Keio Debate Squad 1年
- 11 吉田光太郎 Kotaro Yoshida 筑波大学附属駒場高等学校卒業/東京大学新1年生
- 12 岩井玲子 Reiko Iwai 愛知県立半田高等学校教諭
- 13 梶谷凜奈 Rina Kajitani 東京大学ディベート部1年
- 14 Borock Jonathan ICUディベート部OB、上智大学ディベート部OB
- 15 猪倉郁奈 Kana Inokura 筑波大学附属駒場高等学校ディベート部卒業生
- 16 堂裏唯七 Yuina Doura 京都大学ESS ディベートセクション所属、神戸大学附属中等教育学校ESS部
ディベートセクションOG
- 17 鎌原舞衣 Mai Kambara 早稲田大学 WAD 3年、渋谷英語ディベート部OG
- 18 ライ・メルビン Melvin Lai 東洋英和女子学院教諭
- 19 岡祐司 Yuji Oka 渋谷教育学園渋谷高等学校教諭
- 20 谷口美幸 Misaki Taniguchi 渋谷教育学園渋谷高等学校ディベート部OG
- 21 郷中健太郎 Kentaro Gonaka 慶應義塾大学ディベート部OB
- 22 卓史小林 Takushi Kobayashi 慶應義塾大学ディベート部1年
- 23 山下雄起 Yuki Yamashita 元渋谷英語ディベート部
- 24 貴田悠斗 Yuto Kida 渋谷教育学園渋谷高等学校ディベート部OG、WSDC2011・2012日本代表
他4名 計 28名

ボランティア：運営委員16名、他に大学生17名、社会人18名【合計】51名

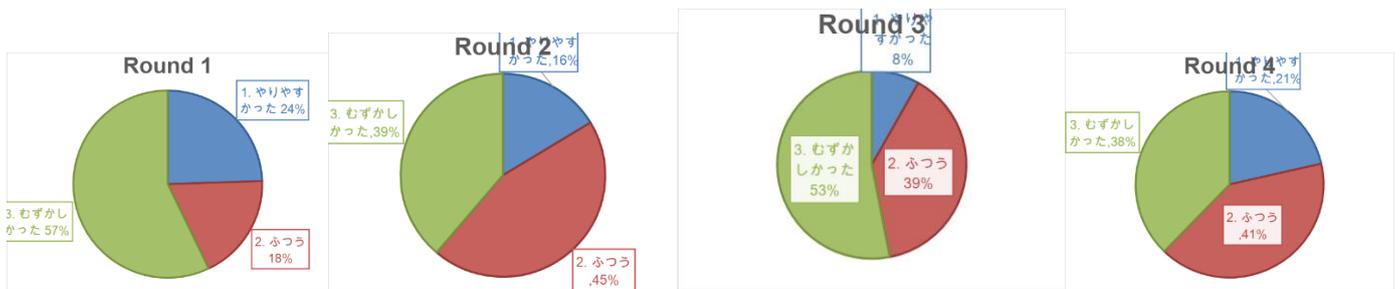
HPDU役員以外の運営委員：神崎花南、杉本絢香、高桑文子、吉野舞起子、藤野こころ、飯田匡、岩崎志帆、
宮原万結子、北原璃莉奈、濱野綾音

各種教育奨励賞：

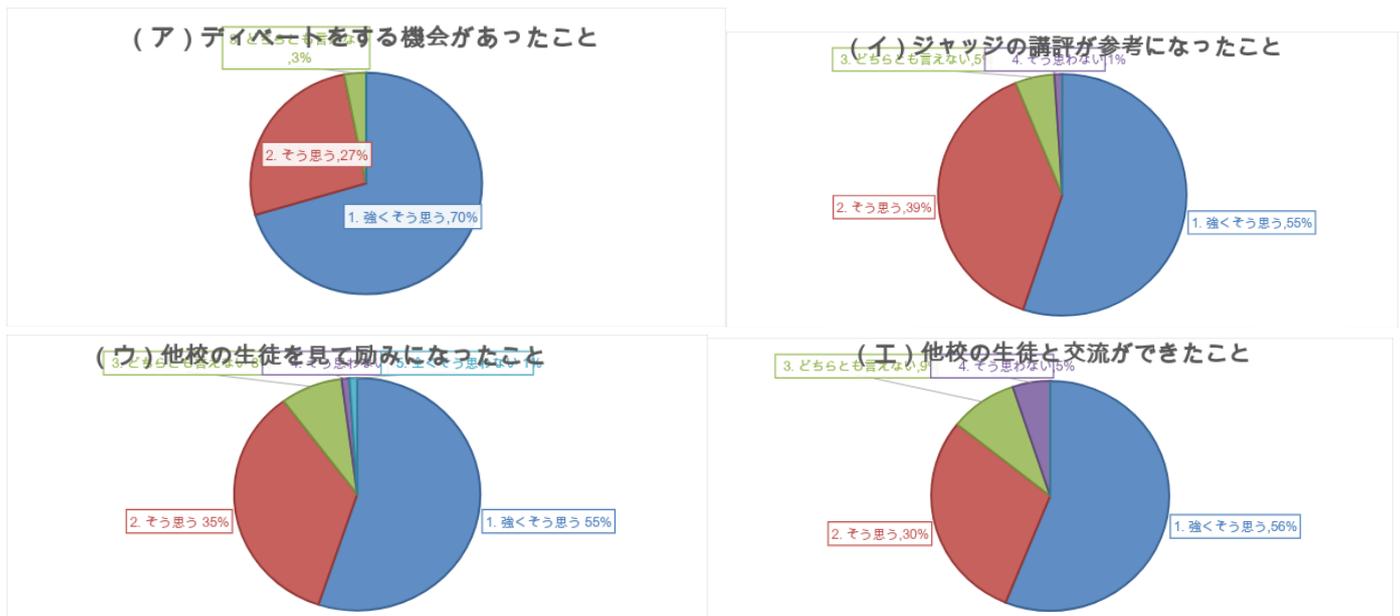
- 1) ESUJ賞：コロナ禍での英国 ESU Debate Academy 開催困難なことに鑑み、優勝チームのディベーター1名につき教育奨励金として10万円贈呈。総額30万円。
- 2) あずさ監査法人賞：参加者全員にパラメンタリーディベート練習用テキストを贈呈。
- 3) 日本英語検定協会賞：予選ベストスピーカー賞受賞生徒、決勝トーナメント出場校に図書カードを贈呈。
- 4) 日本フィルハーモニー交響楽団賞：上位4チームに音楽CDを贈呈。
- 5) キヤノン賞：優勝チームにデジタルカメラとSDカードを贈呈。
- 6) キヤノンマーケティングジャパン賞：準優勝チームにスマホ専用ミニフォトプリンターを贈呈。
- 7) アルク賞：予選大会ベスト16以上のチームに書籍を贈呈。

■ 第11回 連盟杯 (2022年3月) 参加者アンケート 回答総数 98

1. 予選試合の論題はどうでしたか



2. この大会で良かったことは何ですか。



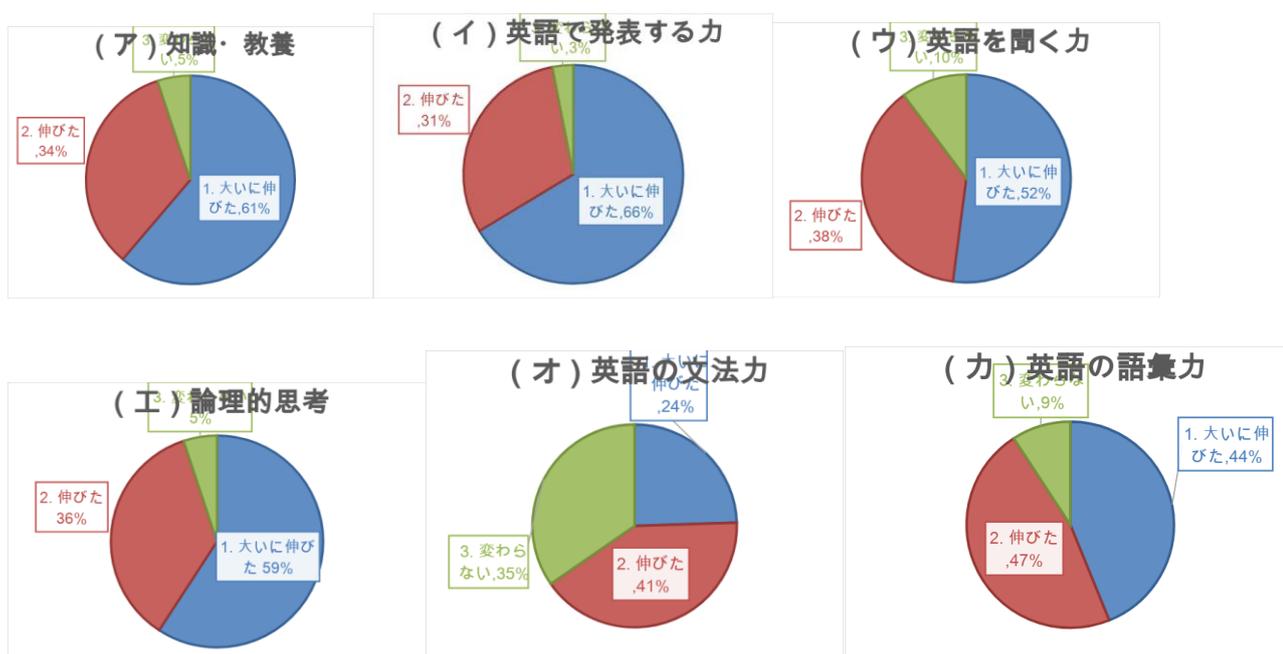
■自由記述 1「その他に良かったことがあれば、こちらにご記入下さい」

- ・ ジャッジのバラエティーがあって色々なコメントを頂くことができました！
- ・ モーションが自分の理解力に丁度合っているか少し難しいくらいで、全くわからなくて悩むことなく、相手の論やリフレクをちゃんと理解して自分の苦手な部分や逆に良かった部分などを蔑ろになることなくきちんと認識できたのがとても嬉しかったし良かったです！また自分のスキルが試合をするにつれて上がっている実感があって、他校の上手な方々を目の当たりにし参考にさせていただけたのも、ジャッジの方々にものすごく役立つアドバイスなどを言ってもらえたのもとてもとても有り難かったです。
- ・ 以前から尊敬している方にジャッジをしていただけてすごく嬉しかったです。他のジャッジの方に指摘されたところを改善出来るように心がけたいです。
- ・ 運営大変にありがとうございました！本当に感謝の思いでいっぱいです。
- ・ 英語を自分で使う機会になって、あまりしゃべる機会がないのですごくいい機会でした
- ・ 改善点を教えていただけたのが、すごく良かった。
- ・ 楽しかったです。
- ・ 議論の展開の仕方が参考になりました。
- ・ 強い相手と試合すると、色々刺激をもらえていい機会になった。
- ・ 今回の大会で初めて Equity violence という言葉を聞きました。ディベートは英語力、知識、社会常識などスキルのものを問うイベントですが、1人の人間として成長できる立派な機会であると様々な大会を通して実感し、今回の大会で Equity violence という言葉を初めて聞いたことで、改めてディベ

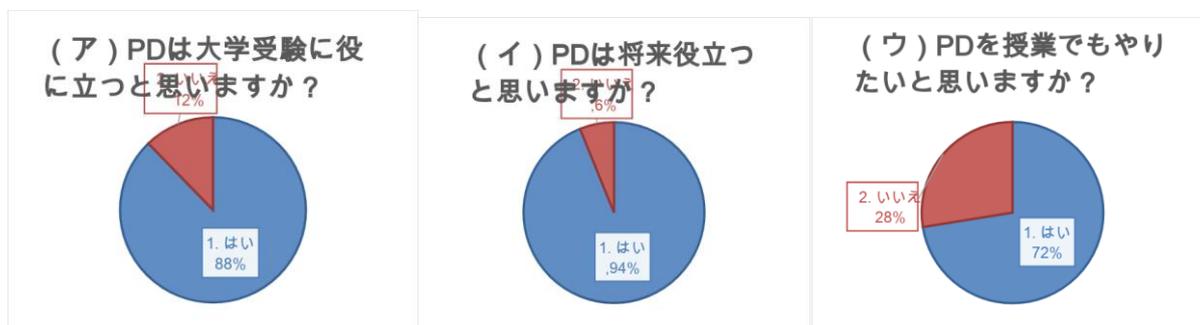
トの潜在性を知ることができました。

- ・自分のレベルを知って、よりディベートに対するモチベーションが上がりました。
- ・自分の力がどれだけあるか知れた。
- ・色々な人と関わったのが良かった。
- ・全国のレベルを感じることができて良い経験になりました。
- ・仲間とのコミュニケーションを図ることが出来た。考えさせられる議題が多かった。
- ・様々な高校やジャッジの方からたくさん学ぶことができた。とても楽しめた。
- ・論題が普段自分たちでは選ばないようなものもあったので、これからの練習に活かせそうです。

3. Parliamentary Debate を通して、どのような力が伸びたと思いますか。



4. Parliamentary Debate(PD) についてお答えください。



■自由記述 2「その他、何かお気づきの点がありましたらこちらにご記入下さい。」

- ・ whip スピーチの捉え方がジャッジによって大きくことなっていた。(新しい観点を提示しなければそのスピーチを評価できないなど) またジャッジが一人であり、また大学生に偏っていてもっと多国籍で数人だとより客観的なポートになるのかなと思った。また当たるジャッジを分散して欲しい。しかしとても意義のある機会だったと思います。ありがとうございました！
- ・ ありがとうございました！

- ・たくさんの新たな分析の方法を教えていただき、目指したい、カッコいいと思えるスピーカーに出会えて嬉しかったです。素敵で楽しい1日をありがとうございました。
- ・ディベートはただの知識と英語を競い合うだけでなく、人間性も試されるということに、さまざまな大会を通して気付かされました。このアークギュメントは画面の向こう側以外の一部の人を傷つけたりしないかな、この発言は優しさのつもりで実は嫌味に聞こえてないかな、そんなことを常に考えながらポイントの構成を考えていると、自分かどれだけ差別的な考えを持っていたのかということを知りました。きっとこの経験はディベートだけではなく、他の場所（人間関係など）ないからと思います。ディベートは私を成長させてくれる、大事な師匠です。あと一年、何回ディベートに参加させてもらえるかわかりませんが、今回のよかったこと、悪かったこと、もう少し知識が足りていたらきつと言えたであろうことを分析し、次のディベートの大会に生かしたいと思います。
- ・パラメンタリーディベートは即興でやらないといけない分、自分のスキルアップをすぐに感じやすくとても良いなと思います。
- ・ブレイクしなかったチームにも、決勝トーナメントの裏側で希望するチーム同士で対戦させるなど2日目にも試合をさせて欲しいです。どうしても決勝トーナメントをユーチューブで見るだけとなると参加している気がせずずっと画面の前で見ているだけだと疲れてしまいます。モチベーションにもなるので試合の機会を全校に2日目にも設けて欲しいです。
- ・モーションが、推奨論題とのレベルが違いすぎて難しいと思います。決勝や準決勝はこのレベルで良いと思うものの、ラウンドワンから長々としたモーションで生徒を困惑させるようなモーションはあまり良くないのではないかと感じました。易化するべきです。
- ・推奨論題よりもレベルの高い論題が多く、とても難しかったです。高校生に合わせて推奨論題か+αくらいの論題を出していただけるとより深い議論ができると思いました。
- ・本部から出されている推奨論題とのギャップが大きすぎたと思います。決勝で出るならまだしも、予選から全てあのレベルだと、論題理解だけで時間がかかり、かなり高校生にとっては負担だと思いました。ジャッジコメントなどはとても参考になり、このような機会をいただけて嬉しかったです。ありがとうございました！

(6) 第11回 高校生英語パラメンタリーディベート連盟 新緑杯

HPDU Spring Greenery Competition 2022

主催：一般社団法人 日本高校生パラメンタリーディベート連盟

後援：公益財団法人 日本英語検定協会、一般社団法人 日本英語交流連盟

協賛：有限責任 あずさ監査法人

協力：iae グローバルジャパン株式会社、エイムネクスト株式会社、株式会社E d u L a b、株式会社オー
ルアウト、株式会社トモノカイ

日時：2022年6月12日（日）8：30～17：30

場所：オンラインZoom、LINEにて実施

参加費：1チームにつき3,000円（各学校から参加申込チーム数は最大で3チームまで。）

主旨：（1）パラメンタリーディベートを通して高校生の総合的英語運用能力を伸ばす。

（2）経験者が新人ディベーターを育成する機会の提供。

（3）様々な社会問題に興味関心を持つ態度を養う。

（4）高校教員のジャッジ養成。

参加資格：（1）日本に住所がある高校に在学している1学年から3学年までの生徒(留学生、帰国生徒、外国籍

の生徒も含む)。

(2) 第3回新芽杯に参加していない学校の生徒。

(3) 1チームにつき1名のジャッジ派遣

試合形式：ノースアメリカン・スタイル [7分、7分、7分、7分、4分、4分] (Constructive speech が4分で、Reply speech が3分)。論題発表から試合開始までの準備時間は20分間。4試合(2試合以降はパワーペアリング)。

チーム構成の条件：

(1) チームの登録人数は3人。チーム内には必ず新人ディベーターが1人は含まれていること。新人ディベーターとは、パラメンタリーディベート公式戦での試合経験がないか、おおよそ10ヵ月未満の生徒を指します。

(2) 同一校のチームの参加とします。ただし、英会話スクールなど HPDU が認めた高等学校以外の団体は例外とします。

日程：8：30～ 8：45 受付

8：45～ 9：15 開会式

9：15～ 9：25 第1試合 対戦表、論題発表

9：25～10：45 準備(20分間)、試合

11：10～11：20 第2試合 対戦表、論題発表

11：20～12：40 準備(20分間)、試合

12：40～13：15 昼食

13：15～13：25 第3試合 対戦表、論題発表

13：25～14：45 準備(20分間)、試合

15：10～15：20 第4試合 対戦表、論題発表

15：20～16：40 準備(20分間)、試合

17：00～ 表彰・閉会式

参加校：茨城県 茗溪学園中学校高等学校、茨城県立日立第一高等学校

埼玉県 さいたま市立浦和高等学校、埼玉県立川越女子高等学校

神奈川県 浅野高等学校、湘南白百合学園高等学校、洗足学園中学高等学校、聖光学院

千葉県 千葉市立稲毛高等学校、東邦大学附属東邦高等学校、翔凜高等学校

大阪府 関西創価高等学校

長野県 UWC ISAK JAPAN

東京都 東京都立富士高等学校、成蹊高等学校、桜蔭高等学校、東洋英和女学院

東京都立小石川中等教育学校、豊島岡女子学園高等学校、東京学芸大学附属高等学校

筑波大学附属駒場高等学校、広尾学園高等学校、渋谷教育学園渋谷高等学校

徳島県 徳島県立城ノ内中等教育学校

富山県 富山国際大学附属高等学校

福井県 福井県立藤島高等学校

兵庫県 神戸大学附属中等教育学校

(27校、51チーム)

Motions(論題)：

Round 1: This House believes that film versions are never as good as the original books.

Round 2: This House believes that community service is a better punishment than prison for

non-violent crimes.

Round 3: This House supports countries offering citizenship based on sporting ability.

Round 4: This House believes that seventy years on, the United Nations is a disappointment.

試合結果：チーム順位

優勝 さいたま市立浦和高等学校C

準優勝 広尾学園高等学校B

3位 広尾学園高等学校A

4位 東洋英和女学院

5位 渋谷教育学園渋谷高等学校A

6位 茗溪学園中学校高等学校B

7位 広尾学園高等学校C、渋谷教育学園渋谷高等学校C、福井県立藤島高等学校C

ベストスピーカー賞 経験者

1位 さいたま市立浦和高等学校C 室永 怜奈

2位 浅野高等学校 久保田 雄大、翔凜高等学校A 呉 ウンソク、
UWC ISAK JAPAN 佐藤 えな、神戸大学附属中等教育学校A 金光 悠良

ベストスピーカー賞 初心者

1位 茗溪学園中学校高等学校B 定元 一磋、渋谷教育学園渋谷高等学校C 田野井 羚歌

3位 広尾学園高等学校A 牧田 遼太朗、広尾学園高等学校B 小林 里歌

ボランティア：運営委員5名、高校生5名【合計】10名

HPDU役員以外の運営委員：青木茉莉花、神山アザティ、島田夏帆、須藤咲、萩原歩乃果

(7) 第3回 高校生英語パラメンタリーディベート連盟 新芽杯

HPDU Sprout Cup 2022

主催：一般社団法人 日本高校生パラメンタリーディベート連盟

後援：公益財団法人 日本英語検定協会、一般社団法人 日本英語交流連盟

協賛：有限責任 あずさ監査法人

協力：iae グローバルジャパン株式会社、エイムネクスト株式会社、株式会社EduLab、株式会社オールアバウト、株式会社トモノカイ

日時：2022年6月12日（日）8：30～17：30

場所：オンラインZoom、SLACKにて実施

参加費：1チームにつき3,000円

- 主旨：
- (1) 総合的英語運用能力向上に有効であるパラメンタリーディベートのルールや技を学ぶ。
 - (2) 大会出場経験が少ない高校生たちに対外試合の機会を与える。
 - (3) 身近な問題や社会の問題について論理的で説得力のあるスピーチを即興でできる力を伸ばす。
 - (4) 高校教員のジャッジ養成。

試合形式：試合：ノースアメリカンスタイル（4分、4分、4分、4分、3分、3分）

1チーム3名、3試合（2・3試合はパワーペアリング）、準備時間は30分とする。

参加資格：(1) 日本に住所がある高校に在学している1学年から3学生までの生徒(留学生、帰国生徒、外国籍の生徒も含みます)。

(2) 第11回新緑杯に参加していない学校の生徒。学校として新緑杯、新芽杯いずれか1つの大会に参加して頂くことになります。

(3) 1チームにつき1名のジャッジ派遣

チーム構成の条件：

- (1) チームの人数は3～5名(1試合に出場するのは3人だが、試合ごとに選手入替可能)。ただし、各試合には必ず1人以上の新人ディベーターが選手として参加すること。新人ディベーターとは、1年生、またはパラメンタリーディベートの公式大会に参加したことがない2、3年生を指します。
- (2) 同一校のチームの参加とします。ただし、英会話スクールなどHPDUが認めた高等学校以外の団体は例外。

日程：8：30～ 8：45 受付
8：45～ 9：15 開会式
9：15～ 9：25 第1試合 対戦表、論題発表
9：25～10：45 準備(30分間)、試合
11：10～11：20 第2試合 対戦表、論題発表
11：20～12：40 準備(30分間)、試合
12：40～13：15 昼食
13：15～13：25 第3試合 対戦表、論題発表
13：25～14：45 準備(30分間)、試合
15：45～ 表彰・閉会式

参加校：愛知県 東海高等学校、愛知県立千種高等学校、愛知県立昭和高等学校
茨城県 並木中等教育学校、茨城県立竹園高等学校、東洋大学附属牛久高等学校
大阪府 常翔学園高等学校
鹿児島県 鹿児島中央高校
神奈川県 栄光学園高等学校、神奈川県立相模原高等学校、桐光学園高等学校、カリタス女子高等学校、神奈川県立柏陽高等学校、神奈川県立多摩高等学校、湘南高等学校、
熊本県 熊本県立熊本高等学校
群馬県 伊勢崎市立四ツ葉学園中等教育学校
埼玉県 埼玉県立大宮高等学校
静岡県 常葉大学附属橘高等学校
千葉県 千葉県立松戸国際高等学校、渋谷教育学園幕張高等学校
東京都 東京都立千早高等学校、山崎学園 富士見高等学校、攻玉社高等学校、東京都立三田高等学校、獨協中学高等学校、東京都立両国高等学校、ECC ジュニア東京練習会、創価高等学校、東京都立田柄高等学校、東洋高等学校、早稲田大学高等学院
徳島県 徳島県立富岡西高等学校
兵庫県 神戸市立葺合高等学校
福岡県 福岡雙葉中学・高等学校
北海道 旭丘高校
山梨県 甲府西高等学校

(40校 56チーム)

Motions(論題)：

Round 1: To compensate for the school days lost due to the COVID-19 pandemic, this House believes that the high school summer holiday this year should be half as long.

「コロナ禍で失われた学校の日数を補うために、本院は、今年の高校の夏休みは半分の長さになるべきだと信じる」

Round 2: Assuming COVID-19 is over, this House believes that traveling abroad is better than domestic travel for your honeymoon.

「コロナ禍は終わっていると前提して、本院は新婚旅行には国内旅行より海外旅行がより良いと信じる」

Round 3: This House believes that women should be given two votes in local and national elections.

「本院は、地方そして国政選挙で女性は2票を与えられるべきと信じる」

試合結果：優勝：埼玉県立大宮高等学校 A 準優勝：渋谷教育学園幕張高等学校 B

3位：栄光学園高等学校 B、伊勢崎市立四ツ葉学園中等教育学校 5位：栄光学園高等学校 A

7位：カリタス女子高等学校 B、渋谷教育学園幕張高等学校

ボランティア：運営委員4名、高校生5名【合計】9名

HPDU役員以外の運営委員：伊藤杏珠、漆原奏江、島田絢菜、根来一葉、古田和香奈

(8) 理事・役員によるディベート普及活動

北原理事長

- ・2021年9月2日 東洋経済新報社発行「東洋経済ACADEMIC SDGSに取り組む幼・小・中・高校特集 vol.2 持続可能な未来をつくるSDGs・ESD教育の実践」にて模擬G7サミットとHPDUを紹介
- ・2021年9月24日 読売新聞オンライン「中学受験サポート」にてSOLACUPと模擬G7サミットを紹介
- ・2021年11月14日 公益財団法人 海外子女教育振興財団主催「即興型英語ディベート・ワークショップ」講師
- ・2022年2月10日 NPO法人日本持続発展教育推進フォーラム発行「第12回ESD大賞受賞校実践集」に文部科学大臣賞受賞校として寄稿。パラメントディベート大会と模擬G7サミットを紹介。
- ・2022年2月25日 「サステナブル・ブランド国際会議2022 横浜」にてプレゼンテーション。SOLACUPと模擬G7サミット、パラメントディベートの意義を紹介
- ・2022年3月27日 読売新聞東京本社による取材(教育ネットワーク HP用記事執筆のため)
- ・2022年6月30日 一般社団法人 WIN WIN 主催「第10回赤松政経塾」講師。「パラメンタリーディベートで地球社会を救う人を育てる」をテーマに発表

小林理事

- ・2021年4月より 東京書籍 高等学校外国語科用 文科省検定教科書「論理・表現II」編集委員(主に英語ディベートに関して編集・助言)
- ・2021年8月7日「全国英語教育学会第46回長野研究大会」にて英語ディベート関連の口頭発表
- ・2021年11月25日「ディベートと議論教育・ディベート教育国際研究会論集 第3巻」にて英語ディベート関連の研究ノートを掲載
- ・2022年3月6日「第8回ディベート教育国際研究会大会」にて英語ディベート関連の口頭発表

浜野理事

- ・2021年7月20日 Benesse English Seminar -新教育課程で育成すべき力と大学入試で問われる力の指導と評価を考える- パネリスト

- ・2021年7月29日 さいたま市初任者教員研修講師 (さいたま市教育研究所)
- ・2022年2月4日 テレビ埼玉 高校生応援企画「アオハルのむこうがわ」生放送
- ・2022年3月25日 茨城県英語4技能指導法グループ研究会「即興ディベート授業への導入指導について」講師
- ・2022年3月14日 中高生の基礎英語 in English 4月号「私のオールイングリッシュ」記事掲載
- ・2022年4月14日 中高生の基礎英語 in English 5月号「私のオールイングリッシュ」記事掲載
- ・2022年4月3日 朝日中高生新聞「中学生のディベート全国大会」英語ディベート記事
- ・2022年5月29日 埼玉新聞「市立浦和高校・中学インターアクト部英語討論会で全国優勝」英語ディベート記事
- ・2022年6月2日 朝日新聞「英語ディベートダブルV」英語ディベート記事

須田理事

- ・2021年8月27～29日 中高生向けの大会「Tsukukoma Schools Open 2021」(主催:筑駒語学部・共催:Tokyo Debate Academy 他)をオンライン開催

河野理事

- ・2021年7月10日 教員向け即興英語ディベート練習会 講師兼運営
- ・2021年8月4日 ECC 教員向け英語ディベートレクチャー 講師
- ・2021年8月10日 ESUJ 教員向け英語ディベートレクチャー 講師
- ・2021年8月18日 ELEC 夏期教員研修 講師
- ・2021年8月26日 岩手県教員向けジャッジレクチャー 講師
- ・2021年8月27日 愛知県立常滑高等学校教員研修 講師
- ・2021年9月25日 朝日出版社 CNN ワークブック 対談
- ・2021年9月25日 教員向け即興英語ディベート練習会 講師兼運営
- ・2021年11月17日 教員向け即興英語ディベート練習会 講師兼運営
- ・2021年12月2日 愛知県立旭丘高等学校ディベートワークショップ 講師
- ・2021年12月2日 初心者・教員向け即興英語ディベート練習会 講師兼運営
- ・2021年12月10日 ECC 生徒向け英語ディベートレクチャー 講師
- ・2021年12月23日 神奈川県立横浜国際高等学校教員研修 講師
- ・2022年1月5日 ESUJ 教員向け英語ディベートレクチャー 講師
- ・2022年1月7日 ESUJ 教員向け英語ディベートレクチャー 講師
- ・2022年1月15日 教員向け即興英語ディベート練習会 講師兼運営
- ・2022年1月16日 徳島県教員向け即興英語ディベートワークショップ 講師
- ・2022年1月15日 徳島県生徒向け即興英語ディベートワークショップ 講師
- ・2022年1月29日 HPDU 愛知県大会 チーフジャッジ
- ・2022年1月30日 HPDU 茨城県大会 チーフジャッジ
- ・2022年2月1日 HPDU 鹿児島県大会 招待ジャッジ
- ・2022年2月11日 HPDU 神奈川県大会 トーナメントディレクター
- ・2022年3月6日 教員向け即興英語ディベート練習会 講師兼運営
- ・2022年3月25日 HPDU 連盟杯 運営
- ・2022年3月28日 神戸市立葺合高等学校教員研修 講師
- ・2022年3月28日 ESUJ モデルディベート 解説

その他

- ・チャンクで英単語 コラム執筆
- ・朝日出版社 CNN ワークブック 記事執筆
- ・朝日出版社 CNN ワークブック 対談記事
- ・角川出版「英語が出来ません」(刀祢館正明著) インタビュー出演
- ・高校生英語ディベート世界大会 (WSDC) 日本代表ヘッドコーチ
(※日本代表 史上初の決勝トーナメント進出)

小野チーフコーチ

- ・2021年1月10日 社会人英語ディベート練習会 Mitsushi Debate Bootcamp 主催
- ・2021年2月7日 HPDU 東京大会審査員
- ・2021年3月13日 Mixidea ルートH大会審査員
- ・2021年3月21日 HPDU 全国大会審査員
- ・2021年6月13日 新緑杯審査員長

加藤四国・九州代表

- ・2021年7月15日 大学生世界大会 (Korea WUDC) 招聘審査員, EFL 部門準決勝審査員
- ・2021年12月6日 九州大学主催「図書館と社会融合」セッション2: 図書館とディベート 登壇
- ・2022年3月5日 第8回ディベート教育国際研究会 学会発表
- ・2022年3月6日 Debate Diversity (Project DD) 立ち上げ/共同責任者
- ・2022年3月7日 「即興型ディベートの教科書」Amazon 1位ベストセラー (セールス/営業部門)
- ・2022年3月20日 九州大学 Spring ディベートキャンプ 講師
- ・2022年3月26日 特定非営利活動法人日本化学振興協会「研究・教育に活かすディベート講座」登壇
- ・2022年6月11日 高校生英語プレゼンテーション GEM Talks 教材監修
- ・2022年6月23日 特定非営利活動法人日本化学振興協会「異分野融合のためのファシリテーション」登壇